

佐渡航路における地域公共交通活性化・再生総合事業計画

地域公共交通活性化・再生総合事業計画の目的

佐渡を訪れる観光客は、平成3年の約120万人をピークに年々減少しており、平成19年には約60万人と減少している。一方で、観光客入込数の落ち込みは航路運営にも大きな影響を与えている。このような背景の中昨年佐渡航路活性化協議会を設立し、地域公共交通総合連携計画策定の調査を実施し、特に重要な施策について事業化に向けた調査・分析を行いとりまとめ、同計画の計画的かつ効果的・効率的実行を確保することを目的とする。

佐渡航路活性化協議会

佐渡市、新潟県、新潟市、新潟交通佐渡(株)、
社団法人佐渡観光協会、北陸信越運輸局、
佐渡汽船(株)

地域公共交通総合連携計画に定める事業の概要

- 1) 佐渡航路地域公共交通利便性向上プロジェクト
 - ① 臨時便等運航事業(臨時便等の効果的なPR)
 - ② 車両航送等の運賃多様化事業(運賃多様化の推進)
 - ③ 乗船のスマート化事業(発券・改札のスマート化)
- 2) 航路のおもてなし向上プロジェクト
 - ① ツアーデスク環境整備事業
 - ② 佐渡航路PR用映像ソフト企画制作事業
 - ③ フェリー船内の専用エリア設置事業
 - ④ 1等船室の魅力アップ事業
 - ⑤ 船内イベント運営組織づくり事業
 - ⑥ 船内イベントの実施事業
 - ⑦ 特定客をターゲットにした企画運営事業
 - ⑧ タイムリー企画運営事業
 - ⑨ イベント舞台環境整備事業
 - ⑩ 情報提供機器(電光掲示板)の改善事業
- 3) 県民誘客プロジェクト
 - ① 新潟県民向け佐渡航路利用の新たな旅行商品メニューの企画造成事業
- 4) 佐渡航路情報発信プロジェクト
 - ① 佐渡航路活性化啓発イベント開催事業
 - ② 関連イベントへの参加、誘致事業

佐渡航路の活性化

佐渡航路地域公共交通
利便性向上プロジェクト

航路のおもてなし
向上プロジェクト

県民誘客プロジェクト

佐渡航路情報発信
プロジェクト



佐渡市地域公共交通活性化協議会

平成20年6月4日設置
平成21年3月25日連携計画策定

新潟県 佐渡市

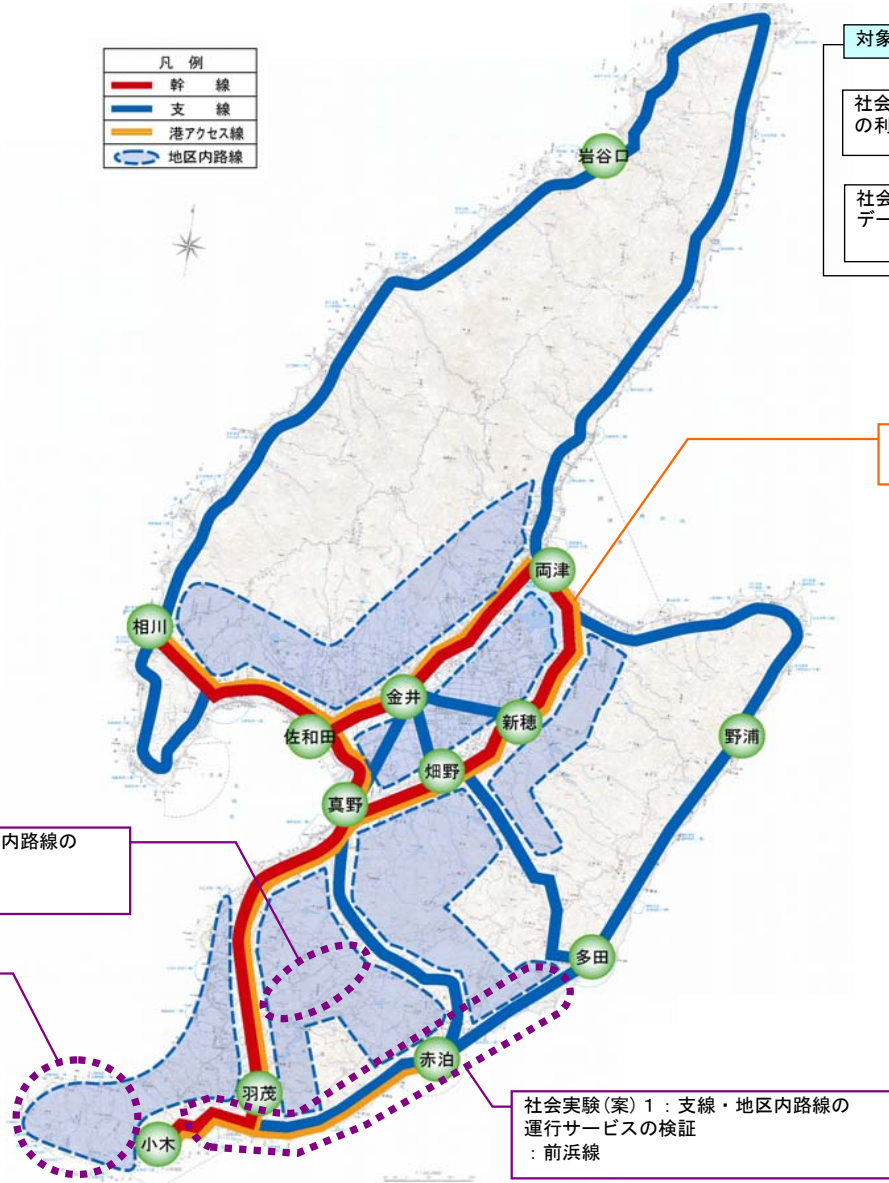
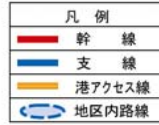


概要

佐渡市では、近年、マイカー利用の増大や、少子高齢化の進展などの社会情勢の変化により、バス利用者は減少し、バス事業者の経営環境を著しく圧迫している。また、事業者を補助する財政負担も年々増加の一途をたどっており、高齢者や高校生などの交通弱者の生活交通の維持・確保が課題となっている。
この現状と課題を踏まえて、佐渡市における公共交通のあり方について、調査・分析を行い、佐渡市の実情に応じた持続可能な公共交通システムの実現を目的とする。

社会実験

- 支線・地区内路線の運行サービスの検証
・新しい公共交通システムへの移行の内、支線・地区内路線の運行サービスの方法を検討・検証する。
・収支率が低い路線を対象とし、新たな運行サービスを行う。
- 観光客の二次交通の充実
・個人、小グループのニーズとして、自由度の高い観光地めぐりを求めていることや、路線バスが乗り入れていない観光地・施設へのアクセスを充実させることで利用促進の検証を行う。
・路線バスにより沿線の観光施設を経由する「観光地経由バス」を運行する。主に個人旅行者に着目し、施設等に自由に滞在し、次の移動先へは路線バスや「観光地経由バス」などによって移動できるような観光二次交通の充実を図る。
- 高齢者の外出支援と公共交通の利用促進
・現在、両津地区で実施している社会実験のサービスを全島に拡大し、高齢者の路線バスを利用した外出支援と、外出機会の増加を図る。
- 路線バスの利用性向上とノーマイカーデー等の実施による利用促進
・路線バスの利用性の向上と、「ノーマイカーデー」「パーク&ライド」などの実施による路線バス利用促進の啓発活動を行う。



対象：全島

社会実験(案)3：高齢者・障がい者の外出支援と公共交通の利用促進

社会実験(案)4：路線バスの利便性向上とノーマイカーデー等の実施による利用促進

社会実験(案)2：観光客二次交通の充実
両津港、小木港、赤泊港

社会実験(案)1：支線・地区内路線の運行サービスの検証
：度津線

社会実験(案)1：支線・地区内路線の運行サービスの検証
：宿根木線

社会実験(案)1：支線・地区内路線の運行サービスの検証
：前浜線